

子供が自分から進んで活動するための援助の工夫

— 教師の言葉かけを中心に —

目 次

I	テーマ設定理由	1
II	教師の言葉かけの意義	2
III	園の教育目標と研究主題との関連	3
IV	子どもを育てる教師の言葉かけ	4
	(1) 雰囲気づくり	4
	(2) 認める	4
	(3) 待つ	4
	(4) 考えさせる	5
	(5) 気付かせる	5
	(6) 知らせる・教える	6
	(7) モデリング	6
	(8) イメージをふくらませる	6
	(9) 共感する	6
V	1日の生活の流れにおける教師の言葉かけの具体例	7
VI	実践事例	11
	1 教師の言葉かけが、活動を発展させ、子どもが自発的に次の活動へ取り組んで いった場面	11
	＜実践例 1＞ 木の実ひろいからレストランごっこへ	11
	＜実践例 2＞ お家ごっこから病院ごっこへ	11
	＜実践例 3＞ ねん土遊びからどんぐり迷路ゲームへ	13
	＜実践例 4＞ 一人遊びからグループ遊びへ	13
	2 教師の言葉かけが生活習慣を促した場面	13
	＜実践例 1＞ 手洗いを促した場面	13
	＜実践例 2＞ 片づけを促した場面	13
	3 帰りの会	15
VII	研究の成果と今後の課題	19
	参考文献	20

浦添市立浦城幼稚園教諭

山城信子

子供が自分から進んで活動するための援助の工夫

—— 教師の言葉かけを中心に ——

浦添市立浦城幼稚園教諭 山城 信子

I テーマ設定理由

幼児期は、周りにいる大人から、あたたかく見守られる中で、自分から環境に働きかけたり、そこから刺激を受けたりして、人間として生活するためのさまざまな力を身につけていく時期である。幼稚園における環境とは、幼児を取り巻く状況のすべてである。園生活の場においては、そこにある事物、自然、身近にいる人達、温たかさ、かもしだす雰囲気、教師の言葉かけや行為などの人的、物的環境のすべてをさす。

これまでの私自身の保育実践を振り返ってみると、活動しやすいように固定遊具を並べ変えたり、園庭に虫を呼ぶ草花や遊べる草花を植えたり、活動を誘発するような遊具や用具を用意するなど、物的環境を整えるのに一生懸命であった。

ところが、進んで活動する子供を育てるには、物的環境を整えるだけでは不十分である。子供が意欲的に行動するためには、子供一人ひとりを、温く見守り、認め、自信を持たせるような教師の適切な言葉かけがなければならない。ちょっとした言葉かけのニュアンスの違いで、子供がやる気を起こしたり、やる気をなくしたりするものである。

例えば、片づけの時間がきているのに、中々遊びをやめようとしない子どもたちに対して、「早く片づけないと、おやつはありませんよ。」とか、「片づけないと明日はさせませんよ。」など脅しの言葉をかけて指示に従わせようとする。また、「あいさつをしましょう。」「手はきれいに洗いましょう。」「トイレのスリッパは並べましょう。」など、口やかましく言うわりには生活習慣が余り身につかない。自主的な子どもを育てたいと願いながら、日常の保育場面では、つい指示命令的な言葉を使ってしまう自分の言葉かけのまずさを感じている。教師の言葉かけのまずさが子どものやる気を失わせていると思う。

子どもとともに生活する中で

- ・子どもとの信頼関係をつくる。
- ・子どもの気持ちを理解する。
- ・心情、意欲、態度が育っているかをみる。

など、以上のことをふまえながら、教師の言葉かけについての理論研究を深め、園生活のいろいろな場面で、適切な言葉かけを実践していくことができたなら、進んで活動する子どもが育つものと考え、本テーマを設定した。

II 教師の言葉かけの意義

「おはようございます」というたった一言のあいさつの中に、「今日もよろしく」とか、「今日も楽しくあそびましょうね」等、様々な思いが込められている。心と心の触れ合いが、言葉という記号を使ってなされる。教師がなにげなく使っている言葉が、子どもの心を励ましたり、また逆に、子どもの心を傷つけたりもする。子どものやりたい気持ちの芽を教師の一言で摘んでしまうことだってあるし、逆につまずいているときに、教師がわかりやすく教えてあげることで子どもがやる気を持ち出すこともある。教師の援助の中でも、言葉かけは直接的援助として中核をなすものであり、重要である。

教師の言葉かけを、指示的な言葉かけと、非指示的な言葉かけに分類し、この2つの言葉かけによる子どもの反応の違いをとらえてみた。

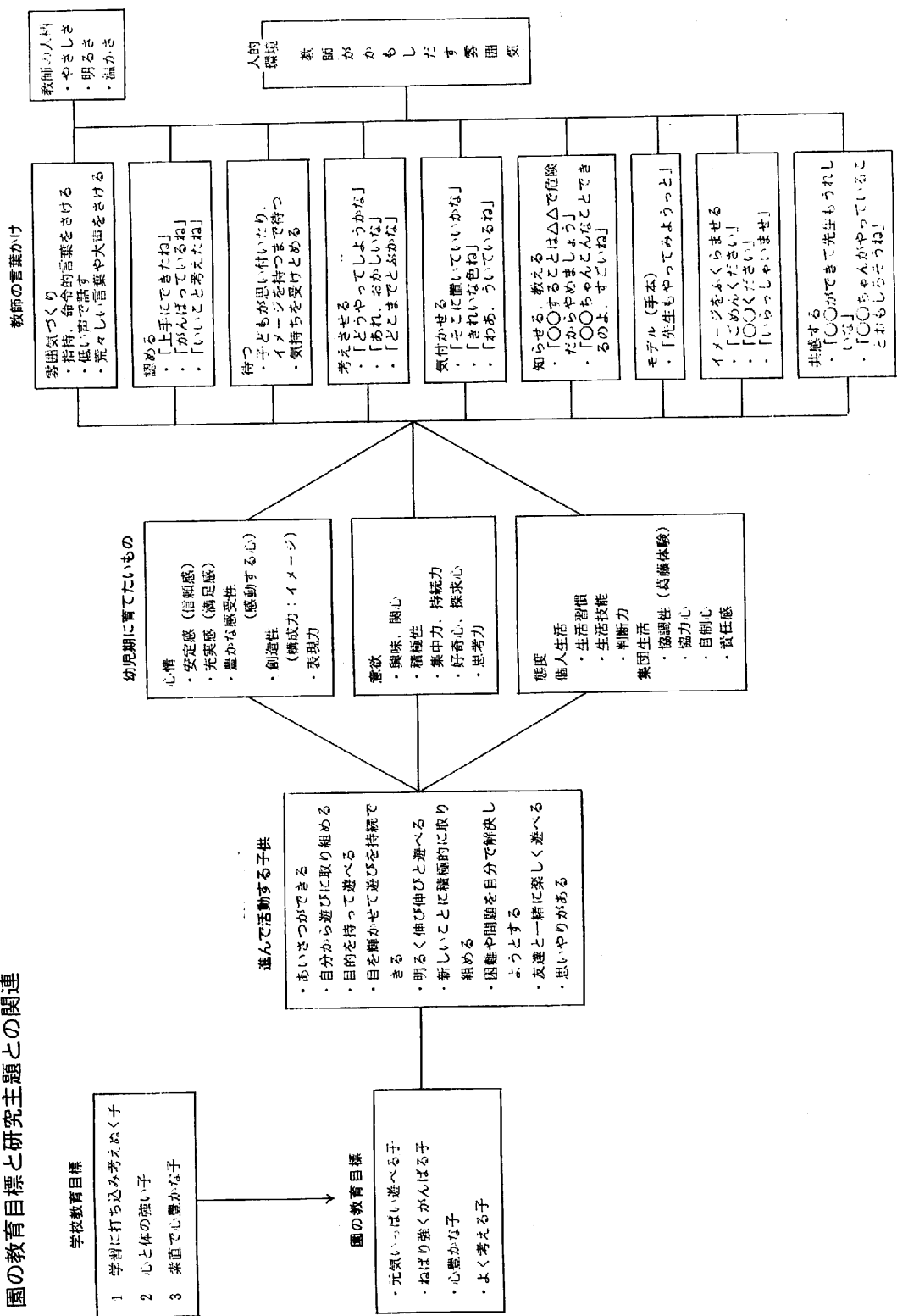
(参考資料 大津市立教育研究所)

指示的な教師の言葉かけ	子どもの反応
<ul style="list-style-type: none"> ・もっときれいな色、持ってきたらいいのに。 ・品物はここより、こちらのほうがいいでしょ。 ・こっちをしてから、そっちをやりなさい。 ・おとなりの人と、手をつなぎなさい。 ・はやく、のりをかたづけなさい。 ・はさみがないから、先生の使いなさい。 	<ul style="list-style-type: none"> →自分の持ってきた色を見つめて、他の色を捜す。 →主張せず、位置を変える。 →だまって従う。 →あわててつなぐ。 →僕のじゃないと知らん顔、持ち主を呼びに行く。 →うなずいて、持っていく。
非指示的な教師の言葉かけ	子どもの反応
<ul style="list-style-type: none"> ・これはどこに置いたらいいかな。 ・手をつなぐお友だちいましたか。 ・わあー。この看板立っている。どうして立っているのかな。 ・きりを指にさしてしまうかもしれないね。 ・あの子、いっぱい持って大へんそうね。 	<ul style="list-style-type: none"> →しばらく考えて決める。 →まわりを見てつなぎあう。 →裏へまわったりして、口々に自分の考えを言い、内容に広がりが見られる。 →しばらく考えて、「あっ、こうするとささらないよ。」 →あわてて、手伝う。

この事例からもわかるように、指示的な言葉かけをしたときと、非指示的な言葉かけをしたときでは、明らかに子どもの反応が違う。指示的な言葉かけのときは、子どもは言われた通りに動いているだけで、子どもが考える余地がない。しかし、非指示的な言葉かけのときは、子どもは自分で考えて行動している。

心理学で、ピグマリオン効果というのがある。否定語よりも認めてほめるという肯定語を使う方が、子どもが伸びるというものである。日々の保育場面では、指示も非指示も肯定も否定もそれぞれに意味がある。的確な言葉を選んで言葉かけしていきたいと思うが、やる気を起こさせるには、できるだけ非指示的、肯定的な言葉を使うように努力し、指示的、否定的な言葉かけは、必要最小限にとどめたいものである。

III 園の教育目標と研究主題との関連



IV 子どもを育てる教師の言葉かけ

教師の言葉かけは、幼児の行動が発達の流れにそって望ましい方向に変容していくことをねらって行われなければならない。ここでは、教師の言葉かけを細分化し、それぞれの言葉かけを、いつ、どのような場面で、どのように使っていったらよいか考えてみることにした。

1. 雰囲気づくり

教師の使う言葉からかもし出される雰囲気がある。それは教師の人柄からにじみ出てくる。温かく、やさしく、明るい教師からは、あらあらしい言葉が出てくることは余りない。ささやきには、ささやきをもって、大声には大声をもって応ずるのが子どもであるから、いつでも低く、落ついた声で話してやるのが大切である。幼児は、書かれた文字を通してではなく、話される言葉を耳を通して学ぶのであるから、常に正しい言葉を聞かせてあげる必要がある。

2. 認める

幼児の反抗的な行動に対して、保育者が感情的に怒ったり、拒否したりするのではなく、その姿をありのままとらえ、許容することである。例えば、無中になって遊んでいる子どもに、「そろそろおやつ時間だから、片づけましょう」と言葉かけした時、「いや、もっと遊ぶ」と言って、何度声をかけても、遊びをやめようとしない。そのような時、その子を反抗的な子どもという見方をするのではなく、目的をもって集中して遊んでいるんだな、自己主張できる子だなと、まず認めてあげることが大切である。そのあと、おやつには、決められた時間があること、クラスみんなが待っていることなどを知らせて、行動を促していくようにする。

また「上手ね」、「よくできたね」の認め方だけではなく、個々の子どもへの適切な認め方を工夫したいものである。(以下 例として)

(1) 子ども自身が気付いたり、発見したものを認める。

「いいもの見つけたね」「いいことしているね」「本当の〇〇みたいね」「いい考えね」

(2) 根気よく取り組んでいることを認める。

「一生けん命頑張る人好きだな」「たくさん見つけたね」「頑張ってやっているね」

(3) 子ども自身が満足している気持ちを認める。

「すてきな〇〇ね」「いいのができたね」「うぁーすばらしい」「うぁーおいしそう」

(4) 自分で考えたところを認める。

「良いこと考えたね」「よく考えられたね」「さすが〇〇さんね」「よく気がついたね」

(5) 進歩していることを認める。

「〇〇できるようになったね」「〇〇がうまくなっているね」

3. 待つ

ゆっくりと成長するのが子どもであることを理解し、子どもが自分の力を発揮するまで見守ってやり、必要に応じて手助けすることである。教育だからといって、教え込んだり、自分のイメージを押しつけたりしないように心がけることである。

(1) 子どもが自分で場や遊具を選ぶまで待つ。

(2) 幼児が何をしようとしているのか、観察しながら思いついたり、イメージを持つまで待つ。

(3) いろいろ試めしながら自分なりの方法を見つけ出すまで、また挫折する一歩手前まで待つ。

- (4) 自分の作ったものが壊れたり、はずれたりすることから、「このやりかたではだめだ」と思いつくまで待つ。
- (5) 必要な材料や用具に気付いて要求してくるまで待つ。
- (6) 友達同志で解決できずに互いに困っている状態を見守り助けを求めるまで待つ。
- (7) 話し合い活動では、幼児なりの意見がでるまで待つ。
- (8) 自己表出の苦手な幼児には、他児と歩調を合わせるための誘いかけをせず、気持ちがあるものに向くまで待つ。

4. 考えさせる

子どもは、試行錯誤を繰り返しながら成長していくものである。教師側からてっとり早く答えを教えてしまうのではなく、子どもが自分にもできそうだと思うようなヒントを与えることにより、知的好奇心や、探求心を持たせていく。

- (1) 方法について考えさせる。

「どうやってしようかな」「なかなかできないけれどどうしよう」「もっと良い方法はないか」「これでよいのかな」

- (2) 原因について考えさせる。

「なぜ〇〇になったのかな」「どうしてかな」「あれっ、おかしいね」

- (3) 予測を持たせる。

「こうしたらどうなるかな」「どこまでとぶかな」「どこまで届くかな」「どんな色かな」「浮くのかな、沈むのかな」「これで何ができるかな」

- (4) 前向きに取り組めるように考えさせる。

「勝つための作戦を考えようか」「ほかにどんなものがあるかな」

5. 気づかせる

問題や状況を教師がストレートに伝えるのではなく、子どもが自分から心を感じとり、自主的に取り組むようにしむける。

- (1) 状況について気づかせる。

「うあっ、こんな所まで来たよ」「きれいな音ね」「きれいになって気持ちがいいね」

- (2) 変化について気づかせる。

「あれっ、やぶれてきたね」「色が変わってきたね」「多くなっていくね」

- (3) 以前の経験について思い起こさせる。

「前 〇〇した時は、〇〇だったね」「前は汗かいていたけど、このご 汗かかなくなつたね」

- (4) 危険なことについて気づかせる。

「うあっ、とがっているのねえ」「そこに置いておいていいのかな」「高いけれど大丈夫かな」「重いから、しっかりともたないと……」

- (5) 役割について再認識させる。

「〇〇さんは△△の係ね」「〇〇屋さんがんばっていますね」

16) 友達の思いについて気づかせる。

「〇〇さんは△△さんと違うことを考えているみたい」「〇〇さんは困っているんじゃないかな」

6. 知らせる、教える

子どもは日々成長したいと考えている。そして絶えず大人たちの評価を求めている。教師が適切な判定を下すことによって、子どもは自信を持ったり、自分を訂正し自己訓練していくのである。

(1) 善・悪・正・不正・危険について教える。

「こんなことあったけれど、みんなだったらどう思う」「先生は〇〇は良い事だと思う」「〇〇することは△△で危険だからやめましょう」

(2) 適・不適について知らせる、教える。…この時期に知っておく必要のある知恵を与える。

「大きくなりすぎると〇〇できなくなるみたい」「すぐにしみこんでしまうね」

(3) 生活習慣について、丁寧に教える。

「ハンカチは毎日取り替えたほうがいいね」「手のひらも手の甲もきれいに洗おうね」

(4) 友達の良さや気持ちについて知らせる。

「〇〇ちゃんてこんなことができるのよ。すごいね」など、目立たないところで善い行いをしている友達の良さを知らせる。

「〇〇ちゃん今日こんなことで困っていたみたいだけれど」

7. モデリング

子どもは、生活をともにしている教師の言葉使い、心づかい、しぐさなど、一挙手一投足をじっとみていることを忘れてはならない。

(1) 生活の仕方の模範を示す。「みていてね」「一緒にやろうか」「ありがとう」

(2) 真剣に働いている様子を見せる。

(3) 遊びの伝承をする。「こんなふうにもあそべるよ」

(4) 失敗してみせる。「せんせい、これだけしかできない」

8. イメージをふくらませる

遊びを発展させる手立てとして、子どもが見たてしやすいようにする。

(1) 遊びの役をする。「はい、いらっしゃいませ」「ごめんください」「〇〇ください」

(2) 何かのものに見立てる。「赤い木の実、いちごに似ているね」

9. 共感する

相手の身になって感じる。子どもの行動を起こさせた感情の動きを敏感に感じとり、その動きに肯定的な感心をよせる。

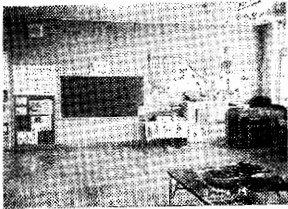
(1) 遊びに参加して幼児と同じ行動をとる。「〇〇さんのやっていることおもしろそうね」

(2) 共に喜び、共に悲しむ。「〇〇ができてせんせいうれしいな」「〇〇がしんじやてかわいそうね」「〇〇すると楽しいね」「やったネ」「よかったネ」「おもしろそうね」

V 一日の生活の流れにおける言葉かけの具体例

	教師の願い	留意点	言葉かけの具体例
登園	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に口から出るあいさつがよいと思うが、はじめは、その子なりのあいさつをうけとめたい。 ・楽しいあいさつをかわしながら、今日も一日はりきっていきましょう！ という意欲を持たせたい。 ・教師が子どもとともに、一日の生活をスタートすることによって、一人ひとりの子どもに安定感を持たせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園当初は、なるべく玄関で迎え、情緒の安定をはかるように心がける。この時、靴のしまい方、上ばきのはき方について一人ひとりを認めたり、指導したりする。 ・一人ひとりの子どもとあいさつをかわしながら、個々に応じた言葉かけをする。 ・教師は担任以外の子どもとも心をかよわすあいさつをするように心がける。 	<p>「〇〇さんはくつばこにくつがきちんとおけるね」</p> <p>「〇〇さんのあいさつ、げんきがよくてきもちがいいね」</p> <p>「〇〇さん、きのうかぜでおやすみしていたね。きょうは大丈夫？」</p> <p>「〇〇さん、あさごはんいっぱい食べたきたかな」</p> <p>「〇〇さん、お誕生日、おめでとう。今日で6さいね」</p>
衣服の着脱	<ul style="list-style-type: none"> ・脱いだ服は、表替えして、たためるようになって欲しい。 ・「チャックをはずして！」など、はじめは教師に助けを求めてくる子どもたちも、次第に友達同志で助け合っているようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱いだ服をきちんとたためる子を認めたり、できない子へは、たたみ方を知らせたりしながら、一人ひとりの触れ合いを持つ。 ・教師も、子どもと共に、身仕たくをしながら「うしろチャックをはずして！」など子どもが助けを求めてきた時などに、すぐに応じてあげられるようにする。 ・「せんせい、きのうね」と言うてくる子どもの話したい気持ちを受け入れ、必ず向きあって話を聞いてあげるように心がける。 	<p>「〇〇さん、じょうずにたためるね」</p> <p>「こんなふうにたたむといいよ」</p> <p>チャックは、途中までおろして「あと、自分でやっごらん」</p> <p>「たのしかったんだね」</p> <p>「こわかったでしょう」</p> <p>「びっくりしたでしょう」</p> <p>など、子どもの話にあいづちをうつ。</p>
持ち物の始末	<ul style="list-style-type: none"> ・カバンやぼうしなど、自分の持ち物の始末ができるようになって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カバンなどついロッカーへつっこんでしまう子へは、一緒にカバンかけまでつい 	<p>「カバンをおくところは、どこかな」</p>

	教師の願い	留意点	言葉かけの具体例
持ち物の始末	<ul style="list-style-type: none"> 自分のロッカーの整理整頓をすることは、気持ちのよい事だということに気づかせたい。 提出物、家から持ってきた廃品物など所定の場所に置けるように教えながら、見守っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ていってかけさせるなど共に生活する姿勢で接する。 ロッカーの整理整頓ができない子へは、整理するのを手助けしながら、整頓の仕方などを教える。 	<p>「せんせいも手伝ってあげるから、いっしょに整頓しようか」</p> <p>「こんなふうに整頓すると気持ちがいいね」</p>
当番	<ul style="list-style-type: none"> 学級や園の飼育物の世話などはじめは先生と一緒にやりながら、次第に自分たちで責任をもって進んでできるようにしたい。 〇〇グループは〇〇係ね、という決め方ではなくて、自分から進んでやりたいものができるようにしていきたい。 教師が喜んで働く姿を、モデルとして子どもに見せながら仕事がいっつも楽しく進められるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師も共に、掃除やえさやり、水かけなどをしながら動植物とのふれ合いを大事にし、親しみやいたわりの気持ちを育てる。 子どものやり残したものは教師があとで補ってもよいという気持ちで、子どものやりたいものができるようにする。 	<p>「小鳥さんの水、汚れているね。一緒に水かえしてあげようか」</p> <p>「小鳥さんの室、汚れているね。一緒にきれいにしてあげようか」</p> <p>「きれいになって小鳥さんも気持ちよさそうね」</p> <p>「〇〇さんに手伝ってもらって、せんせい、とても助かったわ。ありがとう」</p> <p>「せんせい、お花の水かけしてくるね」</p> <p>「せんせい、ニンジン持ってきたよ。〇〇さん、一緒にうさぎさんにあげてこよう」</p>
あそび	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが、自分なりの遊びを見つけて遊び出せるようにしていきたい。 友達とかかわりあって遊ぶ中で、成功感や挫折感などを味わいながら成長していけるように、幼児にふさわしい生活の環境づくりを考えていきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所には常に心を配る。 教師は全園児との関わりを持ち、全職員で全園児を見守る姿勢を心がける。 場の設定については教師間で共通理解できるように話し合いをする。 	<p>「〇〇さん、せんせいとあそぼう」</p> <p>「みんなで遊ぶのって楽しいね」</p>

	教師の願い	留意点	言葉かけの具体例
あ そ び	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりのよさや持っている力を見つけ出し、その子なりの力が発揮できるように励みます。 子どもの遊びは命にかかわること以外は成長することの貯えで、すべて意味のあるものとしてプラスの評価をしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが遊びに必要な材料など、すぐ取り出せるように分類しておく。 体を動かす活動の集中しやすい時期には、落ち着いて活動できるコーナーをつくるようにする。 園内の安全に気を配り破損したもの、危険なものは取り除いたり、修理したり、補充したりする。子どもと共にできる仕事はなるべく一緒にする。 子どもと一緒に遊びながら環境を再構成していく。 	<p>「いいこと考えたね」 「楽しい遊びを考えたね」</p> <p>「すごいね。なわとび 〇〇回とべるんだね」</p> <p>「どうやったら楽しく遊べるかな」</p>
片 付 け	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物は自分で片付ける習慣を身につけさせたい。また、人のものでも置き忘れてあるものに気がついてひろえる子に育てたい。 みんなの遊具を大切にするという気持ちから、気がついた人が片付けるようになってもらいたい。 時間がないときなど、「今日は、先生にまかせて」と教師がひき受けたり、また「先生今日は気分が悪いの」と言って子どもにまかせてみるのも良いと思う。 ゲーム的に片づけ競争したりほめて片づけさせるなど、片付けの習慣を身につけさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭的な雰囲気づくりと整理整頓を心がけ、子どもが進んで片付けたいくなるような環境づくりをする。 <p>写真6</p>  <p>正面の右窓にカーテンをかけて家庭的な雰囲気を出した保育室</p> <ul style="list-style-type: none"> 片付けをちゃんとした方がいいな— ということに気づかせていくようにする。 	<p>「へやを見まわしてごらん気がつくことはないかな」 「〇〇さんのハサミ、ひろってくれたのね。ありがとう」 「おへやがきれいになって気持ちがいいね」 「〇〇さんほうきするのが上手ね」 「小さいごみまでひろえるんだね。〇〇さんはいい目しているね」 「一人で10ケずつひろってね」</p>

	教師の願い	留意点	言葉かけの具体例
おやつ・べんとう	<p>おやつ</p> <ul style="list-style-type: none"> おやつの血は個人用皿にしたり、グループ用の皿にしたりと変化をもたせ、数の対応や自分たちで分け合って食べるなどの経験をさせたい。 <p>べんとう</p> <ul style="list-style-type: none"> 天気の良い日など外で食べるようにしたり、他クラスと一緒に食べたりして変化を持たせたい。 おやつや弁当も食べる場所や型は変化を持たせてよいと思うが、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつや食後の歯みがきなどは習慣化させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 牛乳や食べ物が、体の中でどのような働きをしているか絵本などを通して指導する。 テーブルクロスや一輪ごしに花を生けるなど遊びの場と違うふん囲気をつくり、変化を持たせる。 べんとうを毎日残す子へは、量を少なくしてもらうとか、中味を工夫してもらうなど家庭と連絡をとり合い残さず食べる方向へと導く。 教師がグループにはいって一緒におやつや弁当を頂きながら、食事のマナーなど良きモデルを示していく。 	<p>「牛乳を飲むと背がのびて大きくなるよ」</p> <p>「なんでも食べる子は、病気をしない丈夫な子になるよ」</p> <p>「全部食べるとお母さんも喜ぶよ」</p>
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 絵本や紙芝居、お話し、歌、ゲーム（集団遊び）など、一日の終わりを教師と一緒に、みんなで楽しむ時間にしたい。 “今日一日幼稚園が楽しかった。また明日も楽しみだなあ”という思いを抱いて帰れるように、この時間を大切に扱って心を込めて子どもたちと向き合いたい。 一日の活動を振り返って、教師とみんなで話し合う時間にしたい。 〇〇さんが考えた遊びや“〇〇さんの良かった点”などを紹介することにより、クラスの皆なに一人ひとりを認めさせたり、互いに良かった点を見つけ合うことで子ども同志のつながりを深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスの子とも同志のつながりを持たせるために、学級全員でできるような集団遊びやゲームを取り入れていく。 いつも教師対子どもという座り方だけでなく、主題によっては、円形に座って話し合うなど形態にも気を配る。 話し合いが楽しく進められるように、補助教材を工夫したりして、内容や方法に変化を持たせる。 教師は、いつでも“だれが、どこで、なにを、したのが”という順序立てた話し方をするように心がける。 	<p>「〇〇さんのように順序よく話すとうまくわかるね」</p> <p>「せんせい、今日とてもうれしかったんだ。〇〇さんが〇〇できるようになったの」</p> <p>「〇〇さん、今日〇〇がなくて困っていたみたい」</p>
降園	<ul style="list-style-type: none"> 一斉にあいさつをして帰ることもあるが一人ひとりとあいさつを交しながら、「きょうは楽しかった」「明日もしたい」という子どもの思いを受けとめてあげるなど、その日や、個々の子どもに応じた別れ方を心がけたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 帰りの会で、発言しなかった子、今日一日、余りかかわれなかった子などには、あいさつをかわしながら、少しでも子どもの思いを受けとめてあげるようにする。 一人ひとりの遊びを思い出しながら、それぞれの子どもに合った言葉をかけたり、握手やじゃんけんなどいろいろ変化をつけて、喜んで帰れるようにする。 	<p>「きょうは楽しかった？」</p> <p>「今日、一人で遊んでいたけどお友達いなかったの？」</p>

VI 実践事例

幼児の活動

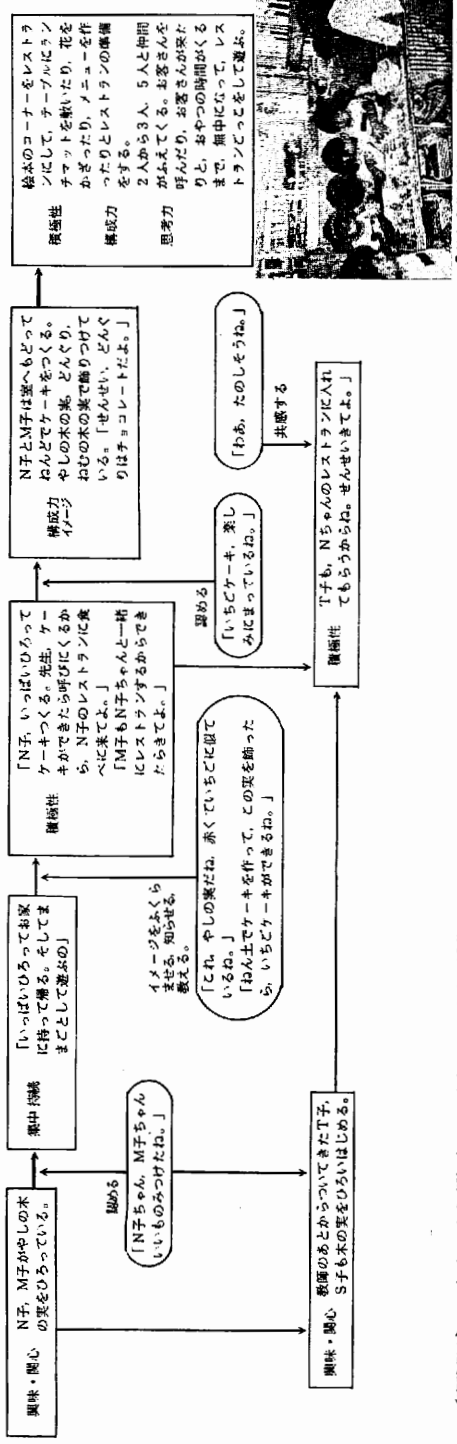
育てているもの

教師の言葉かけ

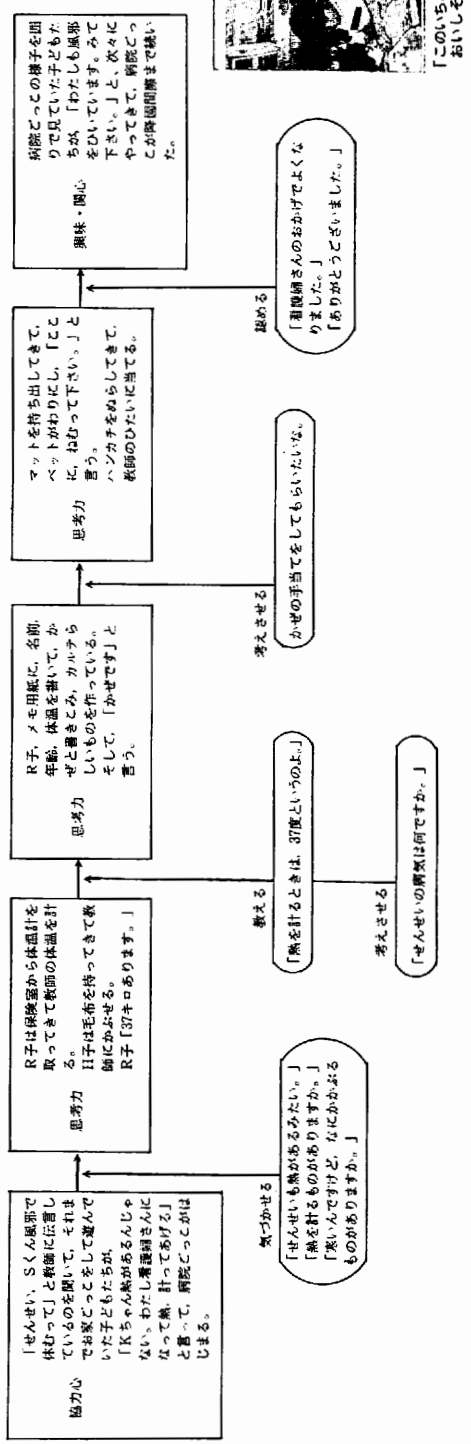
観察

1. 教師の言葉かけが、活動を発展させ、子どもが積極的に遊びに取りこんでいった場面

<実践例1> 木のまわりいろいろな活動



「赤くて、いちごに似ているね。」という教師の言葉かけを、きっかけにして、2人だけ木の葉のまわりいろいろな活動がレストランごとへて発展した。それに、メモタマウの葉、どんぐり、もくまおの葉、まつぼっくり、ねむの葉が環境としておかれていたので、それらの木の葉もレストランのごちそうに取り入りコレートだよ。」と、子ども同士で発想を出し合っており、同時に、教師の大切さを知った。



「せんせい、Sくん風邪で休むって」と教師に反応しているのを聞いて、それまでお家ごっこをして遊んでいた子どもたちから、「Kちゃん風があるんじゃない、わ、わだし養護婦さんになって、熱、計っておける」と言って、病院ごっこが始まる。



「このいちごケーキNちゃんがつくったの？ おいしそうね。」

3. 帰りの会 (平成元年11月15日, 午前11:30~午後12:00 実践記録 主な発問と幼児の反応 考察)

(2, 3人座らない子がいるが, だいたい集ったところをみはからって)

- ⑧ おはなしエプロン出していいかな。
⑨ いいよ, いいよ。(口々に言う)
⑧ 今日はどんなおはなしがとび出してくるかな。
(エプロンをつけながら)
おはなしいくつ入っているかな。
3つも入ってる。(エプロンのポケットをのぞきながら)
でも, 3つもおはなしできるかな。
⑨ できるよ, できるよ。(何人かの子が言う)
⑧ そうね。今日は, みんなが11時30分までに着替えしてくれたから, 3つできるかもしれないね。



ダラダラと着替える子が多いので, 30分までに着替えができたことを認めて, 次への意欲につなげたい。

- ⑨ U太 長はり6にきている。
⑧ みんなで, おはなしエプロンの歌, 歌ってくれるかな。
⑧⑨ ロンロンエプロンロンおはなしとびだす楽しいエプロンロンロンエプロン 今日のおはなしなあに?
⑧ さあ, 今日の一番目のおはなしは, 何かな。(ポケットから主題を書いた紙をとり出す。紙を見ながらささやくように) あ・そ・びのはなしって書いてある。

小さな声でも聞ける子どもを育てるために, ささやくように話しかけるなど声の大小, 調子などに変化を持たせる。

- ⑨ あそびのはなし。
⑧ そう。あそびのはなしって, どんなおはなしかな。
⑨ だれと遊んだかっていうこと。
⑧ そうだね。誰れと遊んだかっていうことと, ほかに?
(N美が立ってウロウロしたので, N美のところに行って小さな声ですわるように促す。)

子どもの気になる行動に注意を促したい時は, 離れたところから声かけせず, 子どものそばまで足を運んで, その子の気持ちを受けとめながら教師の望む行動へと促していきたい。

- ⑧ 誰れとあそんだか言える人?
⑨ たけしとなみと。

- ㊦ そう。じゃね。あそびのはなして、楽しかった遊びもあるんじゃない？
- ㊦ ぼくわかる、UFOごっこ、宇宙人ごっこ、レストランごっこ、おもちゃ、本見た。
(など口々に言う)
- ㊦ (子どもたちの発言にいちいちうなずき、反復する。)

一人ひとりの発言を教師が反復してあげたり認めてあげたりすることは、子どもが安定感を持つことにつながるので、どのような発言も無視しないように注意したい。

- ㊦ すべり台の下で、T子とおうちごっこした。
- ㊦ わあ、今のM子さんの話し方、とてもよくわかった。ほかのみんなは、おもちゃとか、UFOごっことか言ってたけど、M子さんの話し方よくわかった。“すべり台の下でT子さんとおうちごっこをして遊びました。”って長い文でおはなししてくれたのでよくわかった。よくわかるように言える人はほかにいませんか。

子どもが“だれが、どこで、なにをした”と、だいたい順序だてて話せるように、上手に話した子の発言を機会あるごとに取り上げて、知らせていきたい。

- ㊦ ハーイ、かくれんぼした。
- ㊦ かくれんぼ、一人でできるかな？
- ㊦ 一人でできないよ。T志とY彦と、S治と。
- ㊦ T志さんと、Y彦さんと、S治さんと一緒にかくれんぼして遊んだのね。S治さん、今日S也さんたちと一緒にかくれんぼして遊んだの？
- ㊦ (S治、うなずく)
- ㊦ かくれんぼしてどうでしたか？
- ㊦ S治 おもしろかった。
- ㊦ よかったね。昨日ね。S治さんね、“友達がいなくて幼稚園おもしろくない”って言っていたのよ。“みんな、明日は一緒に仲間に誘ってね”って言ったらS治さん泣き出しちゃったね。よっぽど寂しかったと思うよ。だけど今日はね、T志さんとY彦さんが遊ぼうって誘って一緒に遊んでくれたんだってよかったね。
- T志さん、Y彦さん、S也さんありがとう。ほかにありませんか。

クラスの皆なが思いやりのある子どもに育つことを願って、S治のうれしい思いを伝えたり、S治を仲間に誘ってくれた子どもたちを認め、「ありがとう」と教師の気持ちを伝えたりした。

- ㊦ (だまっている)
- ㊦ じゃあ、せんせいおはなししていい？ せんせいね、今日、いいあそび考えた人3人見つけたの。一人は、さっき、N子さんの作ったいちごケーキを紹介したけど、それがひとつね。もうひとつは、Y夫さんのどんぐり迷路、Y夫さん、おはなししてくれるとうれしい

な。できる？ できない、じゃ、せんせいが説明するから、間違っていたらおしえてよ。
(ねんどで作ったどんぐり迷路を皆なに見せながら)

ここが、なんだった？ バイキンマンだった？

⊕Y夫 ううん、アンパンマン、下がバイキンマン。

⊗ そうか、どんぐりがアンパンマンのところに入ったら、いいんだよね。そしてバイキンマンのところに入ったらまけちゃうんだね。Y夫さん、いいこと考えたね。すごいな。みなさん、拍手してあげましょう。

⊗ あと一人、今日いいこと考えた人は、K男さん。

丸太の棒をよいしょよいしょと運んできて、木にかけて、一本橋にしたり、それから、K男さん何にした？

⊕K男 てつぼう

⊗ そう、てつぼうにして遊んでいたのよ。せんせいも一本橋渡ろうとしたけど途中で落ちてしまったの。丸太がグラグラしてむずかしかったよ。みんなも、明日、またやってみたらいいと思うよ。K夫さんも楽しい遊びを考えてくれたので、みんなで拍手してあげましょう。

楽しい遊びをみんなに紹介することで、遊びを広めたり、又教師が、皆なの前で認めることにより、満足感を味わせ、自信を持たせたい。

⊕ せんせい時間なくなるよ。

⊗ あっそうだね。じゃ次のおはなしにいきましょう。もう一度、おはなしエプロンのうたうたって！

⊕⊗ ロンロンエプロンロン……………今日のおはなしなあに

⊗ (ポケットから紙をとり出してみる) “みんながつくったパネルシアター” って書いてあるよ。みんなが作ったパネルシアターあった？

⊕ うん、ある、ボクつくったよ。(何人かの子が口々に言う)

⊗ 何屋さん 作ったの？

⊕ くだもの屋さん。

⊕E二 E二もつくった。

⊗ (子どもの作ったパネル人形を見せながら) これは何？

⊕ りんご

⊗ たくさんあるよ。それでは、くだもの作った人にやらしてもらおうかな。K夫さん、E二さんにやらしてもらおうか。出て来て。楽器は女の子に手伝ってもらおうね。

⊕ ハーイ (女兒、4人出てきて、ギロ、カスタ、タンブリン、スズを一ケずつ持つ。)

⊗ 他の人は、うたをうたうのを手伝ってね。

⊕ (歌いながら、パネルシアターを演じる。)

⊗ とても上手にできていましたね。K夫さん、T夫さん、E二さんに拍手してあげてください。楽器を手伝ってくれたひとも、とても上手でしたね。拍手してあげましょう。みんなも、ほかに何屋さんがあるか考えてパネル人形を作ってみてね。つくったらまたみんなにも見

せてね。

作ったものをみんなの前で発表させることで自信を持たせたり、また、見て
いる皆にも作ってみたいという意欲を持たせたい。

⑧ あとひとつのおはなし何かな。エプロンのうた、もう一回うたってね。

⑨ ロンロンエプロンロン……………

⑩ (集中力がなくなって、ザワザワしている。)

⑪ (紙をとり出して) U也さんがせんせいのところ向いたら開こうかな。

T幸さんが向いたら開こうかな。先生、一人で見ようかな。

⑫ さんびきのこぶた

⑬ 皆なが向いたので見ましょうね。おとなりのひと、ぼうしかぶっているかな。えりはきれ
いにもどっているかなって書いてある。おとなりどうし見てごらん。

⑭ (自分のえりを整えたり、隣の子を見たりして教え合っている。)

気付いたことを言い合うことで、互いに良くしていこうとする態度を育てたい。

⑮ 今日のおはなしはこれでおわりね。では、一人ずつお便り帳をもらって帰りますので、す
わって待っていてね。先生、ないしょ話するので立って来ないでよ。すわって待っている
人からあげるからね。

⑯ E二 お便り帳 お家に忘れてきた。

⑰ おたより帳忘れてきた人は待っていて下さい。

(一人ずつ、名前を呼んで、お便り帳を返ししながら、「今日は楽しかった?」「何して遊
んだの?」「〇〇してくれてありがとうね」など個々の子どもに応じた言葉をかけながら
帰す。)

・おはなしエプロンを使って話し合いの導入をしたが、子どもの興味をひき、
30分という長い時間、話し合い活動を持つことができた。

・降園時に、教師が一人ひとりの子どもと触れ合いを持ったことは、教師が
知らなかった子どもの思いを知ることができ、指導の手立てを見つけると
ができて良かった。

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

研究の成果

4か月間，“教師の言葉かけ”を求めて、何人かの先生方の授業実践を参観させて頂いた。それぞれの先生方の持ち味のある言葉かけに多くのことを学ぶことができた。

その中で、特に，“子どもとともに生活する”ことを丁寧に実践している先輩教師の授業実践に触れて深く感動した。子どもを育てる言葉かけは、子どもと生活をともにしながらの言葉かけでなければならないことを改めて思い知らされた。今までの私は，“子どもとともに生活する”というよりも、子どもを管理する保育者だったのではないかと反省させられている。

子どもを育てる教師の言葉かけを、①雰囲気づくり、②認める、③待つ、④考えさせる、⑤気付かせる、⑥知らせる、教える、⑦モデリング、⑧イメージをふくらませる、⑨共感するという9つの言葉かけに分類し実践した。その結果、授業実践の中から、研究の成果として、次のような子どもの反応がみられた。

- ・保育場で、分類された9つの言葉かけを念頭におきながら声かけしたことにより、子どもたちが安定感や満足感を持ち、教師との信頼関係がうまれた。
- ・「赤くていちごに似ているね」という教師の言葉かけが、子どものイメージをふくらませ、自発的に、次の活動へ取り組ませていった。
- ・手洗いや片づけなどの生活習慣を促す場面では、他児の良い行動を認めて知らせたり、また教師が良きモデルを示したりすることが、子どもの自発性を促し生活習慣が身についていくことがわかった。
- ・帰りの会で、教師が一人ひとりの子どもの思いを丁寧に受けとめ、適切な言葉かけをした結果、子どもたちは、翌日もまた期待を持って登園することができた。

今後の課題

- ・一人ひとりの幼児を理解しながら、今この子に必要な言葉かけは何かを考えて声かけし、不必要な言葉かけをしないように心がけていきたい。
- ・子どもは教師のまねをするので良きモデルとなるようにしたい。
- ・視聴覚教材は、子どもの興味を引きつけるので、これからもいろいろ工夫していきたい。

おわりに

言葉はその人自身から湧き出てくるものであり、なにげなく使っている普段着の言葉の中にその人の人柄があらわれる。園生活において教師のかもしれない出すふん囲気が環境として果たす役割は大きい。それを考えるともっともっと私自身の感性を高め、教師としてよりよい人的環境を子どもたちに与えていきたいと願う。

幼児教育の中にどっぷりとつかって生活していて視野も狭くなりがちな私でしたが、今回、研究所に入所して、小学校や中学校の先生方と出会い、少し視野が広がったような気がします。短い研修期間ではありましたが、たくさんの収穫がありました。このような研修の機会を与えていただきました浦添市教育委員会並びに浦城幼稚園の園長先生に厚くお礼申し上げます

す。また直接、間接に御指導下さった宮城久子指導主事、本園の副園長、職員の皆様、言葉かけの実践記録を心よく提供して下さいましたKの会、市内幼稚園の職員の皆様、数々の示唆を与えて下さった市外の幼稚園の先生方へ心より感謝申し上げます。

<引用文献>

- | | | |
|--------------|-------------|----------------|
| ・大津市立教育研究所 | 研究紀要 - 2年次- | 大津市立教育研究所 1988 |
| ・大城康子, 富川紀美子 | 研究紀要 201号 | 那覇市立教育研究所 1988 |

<参考文献>

- | | | |
|------------|--------------|---------|
| ・高杉自子 | 幼児理解とクラス経営 | ぎょうせい |
| ・吉岡たすく | やる気を育てる | 雷鳥社 |
| ・多湖 輝 | 子どもを叱るうまい方法 | ごま書房 |
| ・新村 豊 | しつけの禁句しつけの名句 | 黎明書房 |
| ・田中 茂樹 | 幼児 育て方ひとつ | サイマル出版会 |
| ・近藤 千恵監修 | 親業ケースブック | ぬ利彦 出版 |
| ・倉橋 惣三 | 倉橋惣三選集第一巻 | |
| ・平井信義 | 子どもに「まかせる」教育 | 明治図書 |
| ・平井信義 | 保育者のために | 新曜社 |
| ・武田建, 白石大介 | 保育セウンセリング | 創元社 |
| ・岸井勇雄 | 幼稚園教育要領用語解説 | 保育資料社 |